

合成基質を基礎としたMRSA選択培地の検討

篠田 香織 (財団法人甲南病院 兵庫県微生物検査ネットワーク), 山本 剛
兒谷 香里, 加藤 さゆり, 阪本 哲生, 加納 栄美子, 山之内 すみか, 木下 承皓
(兵庫県微生物検査ネットワーク)

【はじめに】MRSAは院内感染対策が必要な代表的な起炎菌である。MRSAの証明にはmecA遺伝子を検出する分子生物学的な方法もあるが、通常ルーチンで行う方法には培養・同定検査およびオキサシリンの感受性結果が必要である。しかし、このような手順は2-3日の時間を要し、院内感染対策にはデメリット要素になる。今回、我々は合成基質を基礎培地としたMRSA用の選択培地 CHROMagar®; MRSA (関東化学) を用いた各種検査材料からのMRSAの検出について検討したので報告する。

【対象および方法】対象は兵庫県下12施設で2004年7月に提出された臨床材料734検体として、CHROMagar®; MRSA および市販の卵黄反応を基礎としたMRSA用の選択培地に直接塗布し48時間まで培養を行い比較検討を行った。また、CHROMagar®; MRSA は紫色に呈色した集落を陽性とし、24時間と48時間の2点で判定した。CHROMagar®; MRSA に発育したMSSAに関してはPBP-2' の確認検査を行うことでMRSAの確認を行った。CHROMagar®; MRSA で陽性を示した菌株はそのまま感受性検査を実施した。

【結果】検討した734株中、MRSAが陽性になった検体は23%(171/734)であった。そのうち24時間培養で91%(156/171)株、48時間培養で100%(171/171)株陽性となった。卵黄反応陰性でCHROMagar®; MRSA で陽性を示した菌株は8%(13/171)あった。MSSAでCHROMagar®; MRSAで発育した菌株は2%(4/171)あったが、現在精査中のため当日発表予定である。

【まとめ】今回、我々はCHROMagar®; MRSA の有用性を検討した。今回の検討で検出されたMRSAのうち24時間培養のみで91%検出可能であった。また、卵黄反応を示さなかったMRSAのうちCHROMagar®; MRSA で陽性を示した菌株は8%あった。CHROMagar®; MRSAは色調の変化でMRSAを検出するため、最終確認をするためには同定検査は必要と思われる。しかし、従来の卵黄反応を基礎培地とした選択培地と異なり色調の変化により判定するために判定がし易いため、迅速にMRSAが検出可能であり、有用性の高い分離選択培地である。連絡先 078-851-2161